

「はじめまして」…さまざまな文化活動を紹介するページ

NPO 法人・パスの会は 新しい遊びと、学びと、仕事の試行錯誤を楽しむ会

でも、始まりは、不登校の相談から

「パスの会」の代表・山口実さんのお話によれば、パスの会をたちあげたのは1987年のこと。きっかけは、不登校に悩む親からの相談にのって、子ども達の遊びの場・友達づくりの場、学習の場として始まりました。平成13年9月にNPO法人となり、不登校・引きこもり・家庭内暴力等について、考え、支援しています。「子どもたちが追いつめられる社会では、実は、そこに生きる大人たちの多くもまた、内に生き難さを抱えているのではないのでしょうか。その生き難さに率直にむきあうことが可能な、関係と場所が確保されるとき、お互いが助け合うことの必要性も、自然に認識され、地域の教育へのささやかな一助となることを確信する次第です。」(設立趣意書より)

そして今、「パスの会」の活動はだんだん多面的に多彩になっています。『風のたより』というニュースを発行していますが、その中から、最近の活動予定をみてみましょう。

- ★ プロの職人に学ぶ家作り A to Z 講座
「いす作りに挑戦」
- ★ 踊らNIGHTへようこそ！38th
- ★ 「わいわいクラブ」(毎週水曜日)
- ★ 「南橋親の会」(第三土曜日)
- ★ 「玉村・高崎親の会」(第二土曜)
- ★ 「パス親の会」(第一日曜日)
- ★ 「親父の会」(第三火曜日)等々

「不思議なお店」もやっています

前橋の中央商店街空き店舗を改装して4年前にオープン。売っている物と言えば、リサ

イクル品や手作りの衣類やバッグ、アクセサリなどの委託販売、さらにフェアトレード(公正貿易。途上国の生産者に公正な賃金や労働条件を保証した価格で商品を購入することで、途上国の自立や環境保全を支援する国際協力の新しい形態)のコーヒーや食材、民芸品、また古本まで、大金以外なら大抵そろろうとか。毎日がバザーですから、掘り出し物は、よく顔出しするお客さんの目に止まり、すぐ無くなるそうなの。



月曜・水曜日を除いて、毎日午後1時から午後6時半まで、ボランティアの日替わり店長とスタッフが店番をしています。はじめからそもそも続けていくことが目的ではなく、楽しめて、気軽な、「ドタキャンあり」のゆるさがそこはかたなくただよっている「不思議なお店」、いつのまにか4歳だそうです。ちょっと寄ってお茶を飲んで話し込んだり、相談ごとをしたりという空間にもなってきた、知り合いのそのまた知り合いがと…人が人を呼んで、今日も「不思議なお店」は進化中です。

そして、この夏、前橋七夕祭りの日に、この店の一角に「かき氷屋さん」が登場しまし

た！大工が本業の山口さん、改装はお手のもの。早速、取材に行ってみると…祭りの賑わいの中で、結構、繁盛していました。土曜日の店長のNさんは、手馴れた手つきで「かき氷屋さん」に変身です。壁には「食品衛生責任者N」の資格証が。店長の感想を聞くと「疲れるけど、楽しいですよ。やりたいことをやって遊ばせてくれるから。自分の好きな物を仕入れたりして、お店屋さんごっこやってみたいなもんです。」な一るほど。

やはりこのお店も、若者にとっては、仕事の試行錯誤を楽しむ場、社会との架け橋です。



「不思議な寺子屋」、7月からオープン

不思議なお店の奥座敷でユニークな講座も始まります。三線講座、手編み講座、絵画教室、ワンコイン学習塾、ロシオの英語教室。ギターひきたいなサークル、実用電気講座等々。子供も大人も歓迎！

「ヤング人材センター」！始動していまーす

すきま仕事 単発仕事 内職等 ありましたら

なんなりとお申し付けください！ ⇒⇒ 090-5822-8462へ

ただしこちらは、自称ヤングの方も大歓迎

現在NPO法人化準備中

草取り ・ ちょっとした力仕事 ・ 農産物の収穫のお手伝い ・ 内職・排水のつまり解消 ・ 水道パッキンの交換 ・ ペンキ塗り ・ ごみの整理 ・ ハウスクリーニング ・ 襖・障子のほりかえ ・ 網戸補修・穴掘り・将棋・囲碁の相手 ・ 土移動 ・ 草木への水やり ・ 犬の散歩 ・ 恋する人への花束アレンジ等々

プロに頼むには、「いまひとつ予算が…」、「この程度のことでは…」、と遠慮なさってる方。そして、若者への仕事創出と、地域の隠れたニーズとニーズの出会いに興味と関心のある方、ぜひ！ご一報ください！

こんな宣伝が、「風のたより」に掲載されました。「ひきこもり」やなんらかの「対人関係」への困難さを抱える若者たちがすぐに社会人として働いて自立していくには、やはりハードルが高い。そこで山口さんは、仕事や人に

慣れていくという意味で、もう一つの試行錯誤の場をつくりました。「ヤング人材センター」、つまり「シルバー人材センター」のヤング版、というわけです。

一人の青年の体験記を紹介しましょう。「仕事が人間を育てる」(山口さん) のですね。

<ヤング人材センターのこと>

B君 20代

ヤング人材センターが始まってから、二年が経ちました。振り返ってみるとあっという間だったのですが、感じたことを書きたいと思います。

自分自身は高校を中退しまして、その後はアルバイトなどをしていたのですが、ちょっとやっていきたいと思う職業があって、試行錯誤してみるのですが、仕事が辛く、現実には厳しく、不安や恐怖、自分はこれからどうなってしまうのだろう、不安感に押しつぶされてしまい、そんなことをかんがえていると覚悟も決まらず、結局前へ進めず立ち止まってしまい、一步踏み出すことが出来ず、壁にぶちあってその壁を乗り越える事が出来なかったというか、乗り越えられなかった自分をいつまでも引きずってしまい、結局籠もってしまって、その時は人生何でこんなにうまくいかないのだろう、なんでこんなにくるしいのだろう、頭の中は一方通行で、先が全く見えない状態で、悔やんで、後悔ばかりで、前に進めていないという、ちょっとやってみようとするも先の不安や恐怖が出てくると立ち止まってしまい、これからどうやって歩いていったいいのだろう、訳も分からず、頭の中ばかりグルグルと考えていて…

そんな時にヤング人材センターがはじまり、最初は、とりあえずやってみようと言う感じで、一番初めにやったのが草取りの仕事でした。一応自分で最初から最後までやるという事で、まずそのお宅へ伺い、仕事の日にちを決めたりなどの段取りをして、「最初は草取りか、ちょっとやりたくないな。」と思っていたのですが、まさか草取りの仕事をするとは思っていませんでしたので、だんだんと責任感もプレッシャーも出てきて「なんとかやらねば」と、当日は家の方にも手伝って頂いて無事終わったのですが、草を取っている間は普段の不安な気持ちも流れていて、草取りという単純な作業かもしれないのですが、不安やプレッシャーはあったけどやりきったという事で、充実感や達成感もあり、終わった後のきれいな庭を見ると、もがいていた自分にとって前に進めたような気がしています。

とても家の方にも喜んでもらえて、こんな感じで2年間ヤングでは徐々にゆっくりではあるけれど小さな自信を一つずつ付けてきたのだと思います。焦って大きな一步を踏み出そうとしていたらまた同じ事の繰り返しになっていたかもしれません。ちょうどヤングが自分のペースに合っていたのだと思います。

そして、ヤングは出会いの場でもあった気がします、社会との関わりがなく不安で、どんどん社会というもの自分にとって遠い存在に思っていたのですが、ヤングで出会った方達との間も、すでに社会と言うか「これでいいのだよな、そんなに大きく考える事もないのか」とそんな気がしています。

いろんな仕事をさせてもらったことで頭でっかちだった自分自身の考えも少しは柔らかくなってきたようで、いろんな人がいて、いろんな生き方があって、仕事があって、そういう方たちに会うことでどうしても狭く窮屈に考えがちで行き詰まると立ち止まってなかなか立ち直れずにいたのですが、生き方の見本を示してくれているような気がして、「何とかやってみよう、一生懸命やるだけやってみよう、いろいろあるかも知れないけどなんとかなっていくような」、そんな気が最近はしていて、なにも見えなかった自分の将来にちょっとだけ光が見えた気がします。なかなかこういう経験はできないですし、人生こんな風になっていくとも思っていなかったもので、これからがまた大変だとは思いますが、ヤングで経験した二年間は自分自身の軸になっていくと思います。またヤング人材センターがおもしろい存在になっていったらなと。

(パスの会の通信「風のたより」より転載)

(取材&文責：瀧口典子、協力：下田由佳)

